

# 教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 7 年 1 月 6 日

氏名 小沼 聡恵

所属 教職開発 コース

指導教員名 浅井 幸子 教授

1. 研究課題 民間教育研究団体における教師の学びの様相—歴史教育者協議会の教師のライフヒストリーを事例として—
2. 報告する学術活動の実施期間 令和 6 年 12 月 27 日 ~ 令和 6 年 12 月 29 日
3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し
4. 学術活動
  - 国外 国内
  - ①英語論文公表
  - ②研究科教員の研究プロジェクト参加
  - ③フィールドワーク
  - ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
  - ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
  - ⑥研究指導委託
  - ⑦留学
  - ⑧国際研修
  - ⑨国際インターンシップ
  - ⑩その他 (具体的に: \_\_\_\_\_ )

## 5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表  
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加  
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク  
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議  
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会  
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託  
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学  
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修  
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ  
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	③
<p>調査先機関：南京市金陵中学、南京市第一中学、南京師範大学、侵華日軍南京大屠殺遭難同胞紀念館、南京利濟巷慰安所旧跡陳列所(追加)</p> <p>国名・都市名：中華人民共和国江蘇省南京市</p> <p>具体的な活動：研究協力者の授業観察、南京師範大学での研究交流、南京大屠殺と日本軍慰安婦に関する史資料の収集</p> <p>活動期間：2024年12月27日～2024年12月29日(3日間)</p> <p>活動内容：</p> <p>12月27日 南京市金陵中学、南京市第一中学にて研究協力者の授業観察</p> <p>12月28日 研究協力者とともに南京師範大学での研究交流、 侵華日軍南京大屠殺遭難同胞紀念館の史資料収集</p> <p>12月29日 研究協力者とともに南京利濟巷慰安所旧跡陳列所の史資料収集</p> <p>調査先の概要：</p> <p>①南京市金陵中学、南京市第一中学は、南京市内にある高校である。</p> <p>②南京師範大学は、南京市内にある教育大学である。</p> <p>③侵華日軍南京大屠殺遭難同胞紀念館は、日中戦争、太平洋戦争の際に、日本軍が南京市民を虐殺した史資料を展示している博物館である。</p> <p>④南京利濟巷慰安所旧跡陳列所は、日中戦争、太平洋戦争の際に、日本軍が南京市在住の女性や朝鮮半島出身の女性に性暴力を犯した史資料を展示している博物館である。</p>	

(注) ① 年月日は西暦で記入してください。

② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。

③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。

④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

## 6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

本報告書における学術活動の目的は、申請者の研究対象である歴史教育者協議会（以下、歴教協）が主催している日中交流活動に申請者自身が参加することで、歴教協の教師が今までの教職経験をどのように日中交流活動に活かしているかを調査することであった。成果として、研究協力者の授業を観察することで、①授業者がどのような願いを込めて授業づくりを行っているか、②日本の高校生を対象とした授業を、中国の高校生がどのように受け止めるか、③授業者が授業中の高校生の様子や発言を省察し、次の授業づくりに活かす様子を見取ることができた。同じく成果として、研究協力者とともに、日本にはない南京大虐殺の原文史資料と日本軍慰安婦の史資料を収集した。その史資料は、南京市民が手づくりで作成した副教材であり、南京大虐殺や日本軍慰安婦を学校でどのように子どもたちに教えるかについて、小中高で校種別に作成されていた。研究協力者がその副教材を翻訳アプリを使いながら読み解き、自分の授業づくりに活かす様子を見取ることができた。また、授業観察と史資料収集以外の時間においても、研究協力者とともに南京師範大学との交流会への参加を通して、海外の研究者と知己を得ることができ、今後の研究活動の基盤を形成することができた。

申請者は自身のインタビュー調査の分析の手がかりとして、上記の授業観察と研究協力者との史資料収集を活かし、博士論文を執筆する。上記の研究課題は、日中間の歴史教育交流の文脈に位置づけられることから国際的な視野をもつ研究であり、研究成果を海外に発信することの意義のある研究と言える。このことから本報告書における学術活動を国際研修と位置づけ遂行したことをここに報告する。